

8回生 武富紳也さん (佐賀市勤務)



人類の未来に貢献し 次世代の人材を育成

1991年 4月	弘学館中学校入学
1997年 3月	弘学館高等学校卒業
1997年 4月	東北大学工学部入学
2006年 3月	東北大学 博士 (工学)
2008年 4月	京都大学 特定助教
2011年 4月	佐賀大学 准教授
2015年 3月	Stuttgart 大学 客員研究員 (1年間)

(2019年1月現在)



ドイツのクリスマスマルクトにて

弘学館時代の夢と

大学時代の夢

弘学館に入学したころは何もわからず、ただ言われるがまま勉強に取り組んでいました。当時は将来について具体的な夢を持っていなかったのですが、あるとき大学の各学部で学習できる内容と主な就職先とが解説された雑誌を見つけ、自分のやりたいことや将来について少し真面目に考えはじめました。その後、ロケットや飛行機、自動車などの機械に興味を惹かれるようになり、将来の目標が定まることで勉強にも全力で取り組めるようになって、何とか東北大学工学部に入学することができました。

大学入学後は色々な研究に触れるうちに、研究が楽しくてたまらなくなりました。現在では大学の教員として研究論文執筆や国際会議への出席、学生の教育や社会人向け講座など様々な仕事をしています。

機械と破壊

～世界共通の課題にとりくむ～

「機械」は我々の日常生活を支える、無くてはならない存在となっています。例えば自動車、もしも自動車がないと日常生活に不便を感じることでしょう。では、自動車を購入するとして、皆さんならどういった基準で検討するでしょう。価格やデザイン、燃費、走行性能などでしょうか。壊れにくいことを判断基準に挙げる人はほとんどいないと思います。ところが、機械が『壊れない』ことは、実は当たり前のことではありません。壊れる原因の一つが、き裂が成長してしまい生じる破壊です。破壊を防ぐことができれば一番なのですが、なかには原因がわかっていない破壊もあります。私は今、破壊のメカニズムについて研究を進めていますが、破壊は乗り物や発電所など、あらゆる産業界で世界共通の人類の課題なのです。

武富紳也さんのとある一日

8:30	出勤
10:00	講義資料作成
11:00	講義
13:00	会議
15:00	研究打合せ
17:00	研究
20:00	帰宅

後輩へのメッセージ

弘学館でできた友達を大切にしてください。友人は人生の財産です。皆さんもいずれ社会人となり、友人達もそれぞれが別々のフィールドで活躍することになるでしょう。そんなとき、友人達はときに勇気づけ、ときに励ましてくれる、皆さんにとって頼りになる存在となるはずです。You will never walk alone. (ちなみに私の場合、弘学館時代にできた友人は社会人となってからの進路も幅広く皆とても個性的なので、再会すると話題がつきることなく夜のお酒がすすみます・・・)

皆さんも、今の仲間たちと刺激しあいながら弘学館生活を送ってください。

